

『 発想を転換して 日本の医療、文化の再評価を 』

昨年末、3年ぶりに政権が交代した。何かが変わってほしいという人々の願いが票になって表れたのだと思う。その前の政権交代のときもそうであった。

消費の低迷で世間には不況風が吹いている。人口減少と高齢化で、子どもの数が減り、高齢者人口が増え続ける中、いかなる施策を行っても消費がそれほど増えるとは考えられない。高齢者は子どもや若年者と違い、物をあまり必要としない。大量生産、大量消費に向かないのである。保険診療への消費税非課税制度から生じる損税をはじめ、低医療費政策による医療崩壊も叫ばれている。

しかし、世界に目を向けると、ぜいたくな悩みではないだろうか。いまだに、戦争や民族紛争、テロの応酬で連日多くの死傷者を出している国や地域がある。米国では貧富の格差が広がり、未保険者は何千万人にも上り、病気で入院すれば破産する中所得者が多い。中国も貧富の格差に悩まされている。

国民皆保険の下、低医療費でいつでもどこでも医療機関にかかり、治療を受けられるわが国は世界でも恵まれている。生活保護、医療保護が行きわたり、介護保険は充実し、施設・在宅介護も整ってきた。失業率は上がったとはいえ、5%を切っており、他の先進国ほど悪くはない。文化面では能、狂言、歌舞伎などの伝統芸能、源氏物語、古事記、万葉集、俳句、和歌など世界に誇れるものがある。宗教も平和的である。

一昨年の東日本大震災では津波と原子力発電所事故が重なり、わが国は有史以来の災害を受けた。多くの人がお亡くなりになり、復旧もいまだ途上にあるが、人々の助け合いの精神で、暴動、強盗、盗難などはほとんど報告されておらず、世界の賞賛の的となった。

今話題のTPP（環太平洋経済連携協定）は、多くの人が恐れているほど農業や医療に脅威を与えるものなのか疑問に思う。日本の医療、介護制度は世界に輸出できる立派な制度だろう。医療、農業、文化などで、世界で活躍する日本人は増えている。外圧をいたずらに恐れず、積極的に海外に出ていくことを考えてもよい時期だと思う。

尼崎中央病院理事長
兵庫県民間病院協会副会長
吉田 静雄